

当協会のスポーツ情報システムは日本馬主協会連合会の支援を受け運営しています。

令和 5 年度第 4 回理事会の開催について

11 月 8 日(水)開催の標記理事会の概要についてお知らせします。



ー報告事項ー

■会務関係

●令和 6 年度国庫補助金概算要求について

標記について、令和 5 年度内定額と同額の 5 億 2,015 万 7,000 円としました。

内訳は下表のとおりです。

(単位:千円)

事 項	令和 5 年度 内定額	令和 6 年度 概算要求額	増(△)減 (対前年度内定額)
1.スポーツ指導者養成事業	161,293	161,293	0
2.アジア地区スポーツ交流事業	266,961	266,961	0
3.地域のスポーツ環境基盤強化	86,906	86,906	0
4.海外青少年スポーツ振興事業	4,997	4,997	0
計	520,157	520,157	0

●令和 5 年度文化勲章及び文化功労者並びに令和 5 年秋の勲章受章者について

標記について、下記のとおりとなりました。

1. 文化勲章

受章者	主要略歴
川淵 三郎	現 一般社団法人日本トップリーグ連携機構 会長 元 社団法人日本プロサッカーリーグ(Jリーグ) チェアマン 元 財団法人日本サッカー協会 会長 元 財団法人日本オリンピック委員会 副会長 元 一般社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ (Bリーグ)チェアマン 元 公益財団法人日本バスケットボール協会 会長

2. 文化功労者

受章者	主要略歴
木村 興治	現 公益財団法人日本卓球協会 顧問 現 一般財団法人日本スポーツマンクラブ財団 会長 元 公益財団法人日本オリンピック委員会 常務理事 元 一般社団法人全日本テコンドー協会 会長

3. 勲章受章者<JSPO 推薦による受章者>

■旭日中綬章

受章者名	功労概要	主要略歴
青木 剛	スポーツ振興功労	元 公益財団法人日本水泳連盟 会長 元 公益財団法人日本オリンピック委員会 副会長
福田 富昭	スポーツ振興功労	元 公益財団法人日本レスリング協会 会長 元 公益財団法人日本オリンピック委員会 副会長

■瑞宝小綬章

受章者名	功労概要	主要略歴
菊地 俊美	教育研究功労	元 公益社団法人日本ウエイトリフティング協会 副会長 元 日本大学 教授

■ 旭日双光章

受章者名	功労概要	主要略歴
児玉 圭司	スポーツ振興功労	元 財団法人日本卓球協会 常務理事
小林 正子	スポーツ振興功労	元 社団法人日本スポーツチャンバラ協会 理事

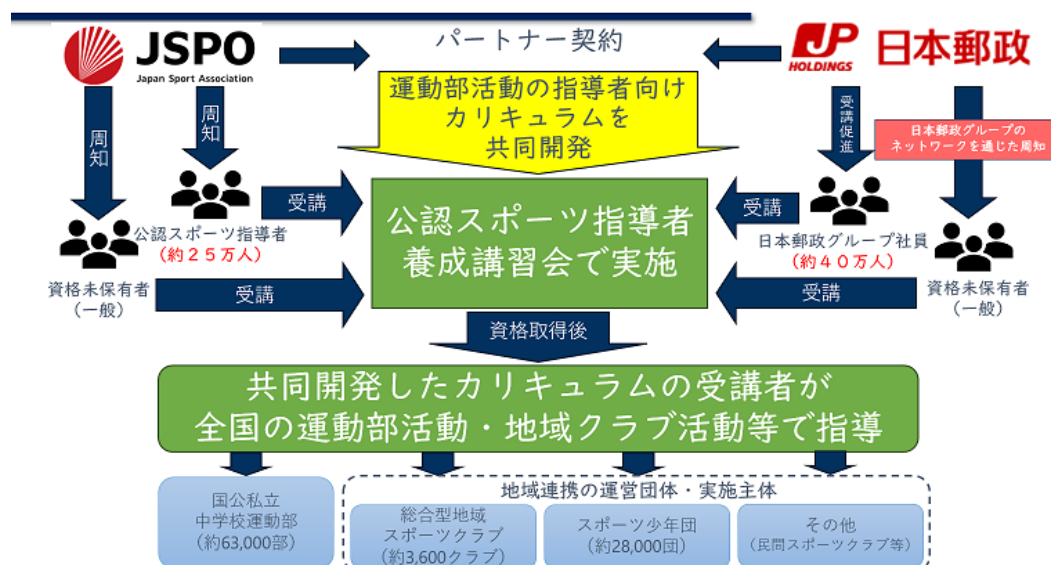
●日本郵政株式会社との運動部活動の地域連携の支援に向けたオフィシャルパートナー契約締結について

当協会は日本郵政株式会社とオフィシャルパートナー契約を締結しました。基本契約である「オフィシャルパートナー」に加え、各事業での取り組みを可能とする「選択プログラム」として「運動部活動の地域連携支援事業(指導者育成分野)」も締結しています。

本契約は、運動部活動の地域連携の支援に向けて連携・協働することを目的としており、日本郵政と運動部活動の指導者向けカリキュラムを共同開発し、公認スポーツ指導者養成講習会で実施することとしています。

今後、日本郵政グループの社員をはじめ多くの方々に公認スポーツ指導者資格を取得いただき、全国の運動部活動・地域クラブ活動等で指導に当たっていただくことを目指します。

日本スポーツ協会と日本郵政による地域スポーツ支援の取組 概要



●各プロジェクト・チームの取り組み状況について

(1)JAPAN GAMES プロジェクト・チームの取り組み状況について

本プロジェクト・チームは、令和 4(2022)年 3 月 4 日開催の令和 3 年度第 6 回理事会での JAPAN GAMES 基本方針の策定を受けて発足した部署横断型のプロジェクト・チームです。

JAPAN GAMES は、国民スポーツ大会・全国スポーツ少年大会・日本スポーツマスターズのブランド統合により、スポーツ大会や活動に求められる新たな在り方を創造し、今まで以上にアミューズメントへ進化させる取り組みです。基本構想の内容については、既報 JSPO フラッシュ No. 23-02(令和 5(2023)年 5 月 12 日発行)にて報告済みのため省略します。

上記 3 大会の相乗効果を発揮できるような取り組みを創出し、多くの企業にご協賛いただけるよう、ブランド戦略委員会で新たな協賛制度を継続協議していきます。

(2)運動部活動改革に係るプロジェクト・チームの取り組み状況について

本プロジェクト・チームでは、第 3 期スポーツ基本計画ならびに、運動部活動の地域移行に関する検討会議の提言を踏まえ、子どもたちの安全・安心なスポーツ環境を確保するため、「指導者の確保」、「運営団体・実施主体の確保」、「財源の確保」の 3 点について、実現可能な具体的施策を加盟団体と連携・協働し、スポーツ界一体となって取り組むこととしています。

本年度も年 2 回の加盟団体ミーティングを予定しており、来る令和 5(2023)年 11 月 30 日開催のミーティングでは、当協会およびスポーツ庁から情報提供を行うほか、日本中学校体育連盟から本年度が初年度となった全国中学校体育大会大会における地域クラブの参加状況の報告と、加盟団体から事例報告がされる予定です。次回は令和 6(2024)年 3 月に開催します。

また、当協会加盟団体の改革の進捗状況の調査として、令和 4 年度に実施した実態調査を今年度も再度実施しました。各競技団体や都道府県における実態を継続的に把握し、今後の具体的な取り組みを推進する際の参考にしています。

当協会 HP の特集ページでは、運動部活動改革の経緯や基本的な考え方、参考情報をはじめスポーツ庁や競技団体、自治体等の取り組み事例についても掲載をしており、取り組み事例については、随時更新をしています。

▶当該ページ <https://www.japan-sports.or.jp/tabid1377.html>

(3)SDGs プロジェクト・チームの取り組み状況について

本プロジェクト・チームは 2030 年をゴールとした SDGs の目標達成に向け、当協会の取り組みを検討するために発足した部署横断型のプロジェクト・チームです。令和 5(2023)年 3 月に契約締結した、(一社)SDGs in Sports(以下「SinS」という)と連携し、JSPO 加盟の 126 団体をはじめ、約 25 万人の公認スポーツ指導者、約 54 万人のスポーツ少年団関係者のスポーツ界のネットワークを有効に活用し、スポーツを通じた SDGs への取り組みが、我が国のスポーツ界全体に波及し、最大限の効果が発揮できるように検討を進めています。

現在以下の取り組みを行っています。

1.加盟団体役員の男女比等の調査・分析

加盟団体役員における男女比等の調査・分析を通じて、女性役員が活躍する環境を整備するために必要な要素・課題を抽出し、今後の活動の基礎データとすることを検討しています。この調査で得られた結果から、女性役員の輩出に必要な施策に活用します。

2.SDGs 実践リストの作成(SinS との合同作成)

スポーツ少年団活動など自分たちの身近な活動の中で取り組める SDGs を紹介することを目的に作成するものです。現在リストの選定などを検討しています。

3.加盟団体への情報提供・共有

加盟団体の取り組みをホームページで公開し共有するとともに、SinS が行う各種研修などの情報を加盟団体に向けてメールでご案内します。

4.Sport Japan および JSPO Plus を用いた周知・啓発

「スポーツ」「ジェンダー」「多様性」「ガバナンス」をテーマにした対談や特集を記事化予定です。掲載内容については現在検討中です。

5.JSPO ホームページ内 SDGs ページの充実

SinS からの助言を得ながら、当協会や加盟団体における活動事例の紹介を随時行っています。

6.その他(SinS との連携実績)

海外交流事業の事前研修会において、SinS 代表理事の井本直歩子氏を講師に招聘しました。

(4)「NO!スポハラ」活動プロジェクト・チームの進捗状況について

本プロジェクト・チームは、主催 6 団体(当協会・日本オリンピック委員会(JOC)・日本パラスポーツ協会(JPSA)・日本中学校体育連盟・全国高等学校体育連盟・大学スポーツ協会(UNIVAS))で構成する実行委員会と、実行委員会のワーキンググループの下に位置づく当協会事務局内の部署横断型のプロジェクト・チームです。

本年度すでに行った取り組みとしては、下記のとおりです。

- ・特設 WEB サイトの公開(4 月)
- ・活動に賛同いただく方に「NO!スポハラ」ロゴパネルを持っていただき、その様子を SNS で公開(随時)
- ・保護者向けイベントの開催(7 月 30 日:セミナー、9 月 17 日:ワークショップ)
- ・「NO!スポハラ」ポスターデータの作成、同時にこのデータを全国各地の大会などで印刷するプログラムにも掲載いただけるようダウンロードできるようにし、加盟団体等を通じて全国に周知

今後実施予定の主な取り組みとして、以下の内容を検討しています。

1. 著名アスリート等による活動周知(メッセージ)動画の公開

「NO! スポハラ」活動の趣旨に賛同いただいた、次世代を担うアスリート、著名な元アスリートらによる複数のメッセージ動画を公開することで、「NO! スポハラ」の呼びかけを拡散。

※11 月 20 日に公開しました▶ <https://www.japan-sports.or.jp/spohara/campaign/>

2. SNS アクション

著名アスリート等による活動周知動画の視聴をきっかけに、個人が「私も言います NO! スポハラ」などと SNS 上でアクション(投稿)しやすい(声をあげやすい)環境をつくるための企画を実施。

※11 月 20 日から開始しました▶ <https://www.japan-sports.or.jp/spohara/campaign/#SNS>

3. 振り返りイベント

活動開始初年度の取り組みを振り返るとともに、今後の展開を周知する機会とする。

■スポーツ・インテグリティ関係

●公認スポーツ指導者の処分について

当協会倫理規程に違反した公認スポーツ指導者 3 名について、「登録者等処分規定」に基づき、処分手続きを行ったことを報告しました。

事案 No.	登録状況	性別	処分対象となる遵守事項の違反にかかる事実	処分の内容	処分の効力発生日*
1	ホッケーコーチ 3	男性	心理的ハラスメント・虐待 身体的ハラスメント・虐待	資格停止 9 か月	2023 年 8 月 23 日

2	ソフトボールコーチ 1	男性	心理的ハラスメント・虐待	資格停止 1年3か月	2023年10月18日
3	バレーボールコーチ 3	男性	心理的ハラスメント・虐待	資格停止 3か月	2023年10月18日

＊処分の効力発生日

処分決定通知書が処分対象者に到達したとき又は処分審査会の決議があった日から3週間後のいずれか早い日

●総合型地域スポーツクラブの処分について

当協会総合型地域スポーツクラブ全国協議会に登録した総合型クラブの処分については、「総合型地域スポーツクラブ全国協議会登録クラブ処分細則」に基づき処分を行います。

処分機関は、全国協議会処分審査会または、処分審査会が委任する都道府県の総合型地域スポーツクラブ登録審査委員会となりますが、基本的には都道府県の登録審査委員会が処分に関する対応を行います。

令和4(2022)年4月1日に総合型地域スポーツクラブの登録・認証制度の運用を開始してから、今回初めて登録クラブの処分案件が発生し、愛媛県の登録クラブの処分が決定しました。

なお、暴力行為を行ったコーチは、当協会公認スポーツ指導者資格を保有していないため、コーチ個人は、当協会の処分対象とはなりません。

事案 No.	当該クラブ 登録都道府県	処分対象となる遵守事項の 違反にかかる事実	処分の内容	処分の効力発生日＊
1	愛媛県	暴力、暴言、セクシャル・ハラスメント、パワー・ハラスメント、差別等の不適切な行為の根絶に違反。 (クラブの活動におけるコーチによる暴力行為の発生)	勧告 (違反行為について文書で注意し、是正・改善ならびに改善計画書の提出を求める。)	2023年5月15日

■国民体育大会関係

●特別国民体育大会(鹿児島県)の終了について

特別国民体育大会本大会は、令和5(2023)年9月16日からの会期前競技の実施を皮切りに、10月7日から17日までの11日間、鹿児島県で開催いたしました。新型コロナウイルスの発生以降、初めて制限がない環境で競技会が開催され、全国から多くの選手が鹿児島県内で熱戦を繰り広げました。

正式競技37競技、特別競技1競技、公開競技5競技を実施し、47都道府県から正式競技および特別競技に選手・監督22,176名、本部役員1,192名の計23,368名が参加しました。

また、総合開会式には天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、総合閉会式では佳子内親王殿下から男女総合優勝・天皇杯、女子総合優勝・皇后杯が共に東京都に授与されました。地元鹿児島県は男女ともに2位となりました。

鹿児島県での国体は、新型コロナウイルスの影響により、当初の令和2(2020)年の開催を今年に延期しての開催となりました。また、本大会をもって「国民体育大会」の名称としては最後となります。

本大会における企業協賛活動については、鹿児島県と協同連携し実施いたしました。国体協賛制度に基づき協賛いただいた4社の支援を得て、国体および国体パートナーのPR活動を行いました。

活動の内容は下記のとおりです。

<看板掲出>

総合開閉会式会場、各競技会場にパートナー企業名ロゴ看板を掲出(計17競技種目、延19会場)

<おもてなし広場ブース出展>

国体パートナー各社企業PRのブースを出展(10月7日総合開会式当日)

<インターネット動画配信サービス「JSPOTV 国体チャンネル」の実施>

みるスポーツの環境整備の一環として、国体パートナーである時事通信社様の協力をいただき、「JSPOTV 国体チャンネル」を開設しました(令和元(2019)年開催の茨城国体から通算 6 回目)。

鹿児島国体の正式競技 37 競技全ての決勝を含めたライブ配信、見逃しアーカイブ配信を 9 月 8 日から実施した結果、下記のと通りの視聴数となりました。

・利用数 : 541,172件 (9月8日~10月17日)

・閲覧数 : 4,727,933件 (9月8日~10月17日)

茨城国体と比べて約3倍、昨年度の栃木国体と同程度の視聴数となり、SNSでも好評を得ました。

なお、国体チャンネルは「国スポチャンネル」に名称を変更の上、来年開催の国民スポーツ大会<冬季大会:苦小牧(スケート・アイスホッケー競技会)・山形(スキー競技会)、本大会:佐賀>でも開設を計画しています。



●第 86 回国民スポーツ大会(山梨県)の開催申請書提出順序について

令和 5(2023)年 7 月 18 日に山梨県から、令和 14(2032)年開催の標記大会の開催要望書が当協会および文部科学省宛に提出されたことを受け、令和 5(2023)年 8 月 24 日開催の第 2 回国民スポーツ大会委員会において、山梨県を第 86 回大会本大会の「開催申請書提出順序了解県」と決定することが承認されました。

山梨県では、昭和 61(1986)年の第 41 回大会以来 46 年ぶりの開催となります。

●JAPAN GAMES in SAGA2024 基本計画の進捗について

標記について報告しました。内容は既報 JSPO フラッシュ No.23-19(令和 5(2023)年 9 月 12 日発行)と同一のため省略します。

■国際交流関係

●第 27 回日韓青少年夏季スポーツ交流(派遣・受入)の終了について

本交流は、平成 14(2002)年サッカーワールドカップ大会の日韓両国の共同開催決定を機に、幅広い年齢層を対象に各種のスポーツ交流を実施することによって、日韓両国の親善と友好をより一層深め、更には両国のスポーツの振興を図ることを目的としています。

派遣交流では、当協会岩田常務理事兼事務局長を団長として、徳島県からサッカーとバレーボール、岡山県からバスケットボール、卓球、バドミントンの小中学生の選手および指導者計 206 名を派遣しました。

受入交流では、韓国選手団 217 名を徳島県にて受け入れていただきました。

■日程および開催地

<派遣交流>

令和 5(2023)年 8 月 9 日~8 月 14 日 6 日間 韓国・光州広域市

<受入交流>

令和 5(2023)年 7 月 30 日~8 月 4 日 6 日間 日本・徳島県

＜派遣交流＞



韓国・仁川国際空港到着時の記念撮影



競技の様子（バスケットボール）



日韓合同レクリエーション

＜受入交流＞



関西国際空港近隣ホテルでの歓迎セレモニー



競技の様子（卓球）



歓送会の様子

●第31回日・韓・中ジュニア交流競技会和歌山大会の終了について

高校生年代のジュニア競技者を対象に、日本、韓国、中国の3カ国持ち回りで実施しております。

本年は日本開催の年にあたり、令和5(2023)年8月23日～8月29日の7日間にわたって、和歌山県で実施し、日本・韓国・中国・開催地和歌山県選手団の合計998名が参加しました。なお、日本選手団は当協会森岡専務理事を団長とし、11競技の選手・指導者に本部役員、帯同コーチ等を加えた計263名で編成されました。

競技期間中は、各国のトップレベルの選手が多数参加し、各競技で熱戦が繰り広げられました。また、競技以外にも、開会式やフレンドシップ交流において、選手同士の交流が深められ、3カ国の相互理解の促進と競技力の向上という目的を達成することができました。

次回、令和6(2024)年の本競技会は、韓国の慶尚北道で開催する予定です。



開会式



競技の様子（陸上競技）



競技の様子（ラグビー）



フレンドシップ交流



フレンドシップ交流



文化探訪（和歌山城）

●第27回日韓スポーツ交流・成人交歓交流(受入)の終了について

本交流は、日韓両国の選手団が互いの国で開催される競技会に参加する形式で実施しております。

令和5(2023)年9月14日から9月20日に日本で行われた受入交流については、韓国選手団170名が来日し、福井県で開催した「日本スポーツマスターズ2023福井大会」への参加を中心に交流を実施しました。

韓国選手団は、日本スポーツマスターズへの参加をはじめ、交流・親善試合等を県内各地で行い、日本選手との交流を深めました。また、福井県の文化・歴史施設を訪問し、福井県の文化を感じていただきました。



中部国際空港での歓迎式



歓迎夕食会でのペナント交換



競技の様子(バドミントン)



競技の様子(サッカー)



競技の様子(バレーボール)



文化探訪(福井県立恐竜博物館)

上記いずれの国際交流も、新型コロナウイルス感染症の影響により4年ぶりに対面での交流が実現し、改めて、リアルでの交流の意義や価値を感じることができました。

併せて、日・韓・中ジュニア交流競技会をはじめ、夏場の大変暑い時期での開催となりましたが、屋外競技を中心に関係者間で熱中症対策を徹底したことにより、大きな事故もなく交流を無事に終了できました。

■日本スポーツマスターズ関係

●日本スポーツマスターズ2023福井大会の終了について

標記大会は、以下の日程で、福井県内9市5町27会場で開催し、13競技に7,542名の選手・監督が参加しました。

<会期>

開会式 令和5(2023)年9月15日 / 競技会 同9月16日～19日

※会期前実施

水泳 同8月26日～27日 / 空手道 同9月2日～4日 / ゴルフ 同9月6日～8日

自転車競技 同9月8日～10日

開会式は、大会名誉総裁である高円宮妃久子殿下の御臨席を仰ぎ、参加者相互の親睦・交流を目的に、福井県内のホテルで開催し、選手・監督、4年振りに日韓スポーツ交流で参加した韓国選手団170名を含む372名が参加して親睦を深めました。

高円宮妃殿下におかれては、サッカー、バレーボールの2競技を御覧になりました。

競技会については、降雨のため、一部の競技で日程変更を余儀なくされるなどの影響はありましたが、実施中央競技団体、開催地の福井県競技団体の懸命なご努力のおかげで、全ての試合を実施することができました。

本大会における企業協賛については、開催地である福井県と協同連携し実施いたしました。オフィシャルスポンサー2社、大会サプライヤー1社、大会サポーター2社の計5社から協賛いただき、開会式会場および各競技決勝会場をはじめとする全競技会場において各協賛社の企業ロゴ看板を掲出するとともに、プログラム広告等による協賛社のPR、会場でのブース出店を行いました。



■生涯スポーツ推進関係

●令和5年度「スポーツの日」中央記念行事の終了について

令和5(2023)年10月9日の「スポーツの日」に、味の素ナショナルトレーニングセンター・イーストにて、スポーツ庁をはじめ、当協会、日本スポーツ振興センター、日本オリンピック委員会など、我が国のスポーツ界が一体となり、「スポーツの日」中央記念行事「スポーツ祭り2023」を開催しました。

当日はあいにくの雨にもかかわらず、延べ568名の方々が来場され、各種イベントに参加されました。

開会式では、室伏スポーツ庁長官によるエクササイズ講座が行われ、自宅でも簡単にできるエクササイズを、会場の子どもたち一人ひとりに説明して回るなど、会場は大いに盛り上がりました。

当協会のプログラムとしては、「アクティブ・チャイルド・プログラム(JSPO-ACP)」を午前と午後の2回実施し、小学生とその保護者、計93組186名が、氷オニや爆弾ゲーム、進化じゃんけんなど伝承遊びや運動遊びを親子で体験していただきました。



■スポーツ指導者育成関係

●公認スポーツ指導者等表彰について

標記表彰について報告しました。内容は既報 JSPO フラッシュ No.23-24(令和5(2023)年11月13日発行)と同一のため省略します。

●公認スポーツ指導者認定者数(令和5(2023)年10月時点)について

標記認定者数(登録更新制ではないスポーツリーダー資格を除く)は、令和5(2023)年10月1日付で合計25万4,578名となり、昨年同時期と比して3万4,953名増加しました。

令和4年度までの過去10年間平均増減数は約5,800名増/年であったため、約6倍増加しましたが、これはスポーツ少年団指導者制度の改定により、単位団での指導者に公認スポーツ指導者資格の保有が義務づけられたことを受け、コーチングアシスタント資格やスタートコーチ(スポーツ少年団)資格の認定者が増えた影響によるものです。特に、本年度が旧制度における資格の移行期間の最終年度であることが、大きな要因の一つ

として考えられます。一方で、一部の資格や競技においては、本人の意思による更新辞退などにより、昨年から認定者が減少しました。

内訳など詳細は、当協会 HP をご確認ください。

▶当該ページ <https://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid248.html>

■スポーツ少年団関係

●日本スポーツ少年団夏の諸行事の終了について

標記の件について、下記のとおり実施したことを報告しました。

1. 指導者養成・研修

第6回ジュニアスポーツフォーラム

- ・期 日 来場型:6月18日(日)／オンデマンド配信:7月3日(月)～7月21日(金)
- ・会 場 来場型:JPタワー ホール&カンファレンス(東京都)／オンデマンド配信
- ・人 数 来場型:268名／オンデマンド配信:84名 計352名



2. リーダー養成・研修

令和5年度日本スポーツ少年団シニア・リーダースクール

- ・期 間 <事前研修>7月9日(日)
<全体研修>8月9日(水)～12日(土)
- ・会 場 国立中央青少年交流の家(静岡県)
- ・人 数 25道府県 48名



3. 国内交流

(1)第61回全国スポーツ少年大会(リーダーズアクション 2023)

- ・期 間 8月4日(金)～7日(月)
- ・開催地 国立淡路青少年交流の家(兵庫県)

※台風6号の接近に伴い開催中止

(2)第45回全国スポーツ少年団軟式野球交流大会

・期 間 8月3日(木)～6日(日)

※期間中に危険な気温となることが予想されたため、子どもたちの健康と安全に最大限配慮し、当初の大会日程から内容を変更して実施

・会 場 大谷津運動公園野球場(千葉県) 他

・人 数 全国各ブロック代表 15 チーム 227 名



(3)第46回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会

・期 間 8月11日(金・祝)～13日(日)

※熱中症対策のため、試合時間の短縮や給水タイムの追加など当初の予定を一部変更して実施

・会 場 大井ホッケー競技場(東京都)

・人 数 男女50チーム 480名



4. 国際交流

(1)第50回日独スポーツ少年団同時交流(派遣)

・期 間 7月27日(木)～8月14日(月)

・場 所 ドイツ連邦共和国

・人 数 8グループ 55名(団員・引率指導者)、団長団3名



(2)第 50 回日独スポーツ少年団同時交流(受入)

- ・期 間 7月26日(水)～8月11日(金)
- ・場 所 東京都、全国各地(地方プログラム)
- ・人 数 13グループ 86名(団員・引率指導者)、団長団3名



(3)日独スポーツ少年団同時交流 50 周年記念行事

<50 周年記念式典(日本)>

- ・期 間 7月27日(木)
- ・場 所 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都)
- ・人 数 ドイツ団 89 名、日本団 58 名 ほか
- ・来賓挨拶 クレーメンス・フォン・ゲッツェ氏(駐日ドイツ連邦共和国大使)
フランク・ウルリッヒ氏(ドイツ連邦議会スポーツ委員会)
ベニー・フォルクマン氏(dsj 副本部長)
八木 和広 氏[スポーツ庁参事官(国際担当)]

<50 周年記念式典(ドイツ)>

- ・期 間 8月12日(土)
- ・場 所 フランクフルト レーマー市庁舎(皇帝の間)
- ・人 数 日本団 58 名、ドイツ団(一部) ほか
- ・来賓挨拶 クラウス・メビウス氏(フランクフルト市議会議員)
麻妻 信一氏(在フランクフルト日本国総領事)
シュテファン・ライド氏(dsj 本部長)



